内モンゴル自治区で実施される第二種双語教育について

中華人民共和国・内モンゴル自治区は、2020 年 9 月 1 日よりモンゴル民族の小・中学校において、「第二種双語教育」を段階的に導入することが、各種メディアやインターネットを通じて明らかになりました。

「第二種双語教育」とは、各科目を国家統一言語、即ち漢語で教えるもので、民族の母語は漢語で教授される 1 つの科目となる教授法です。一方、これまで内モンゴル自治区で行われてきたのは「第一種双語教育」であり、各科目は民族の母語で教えられ、漢語は母語で教授される 1 つの科目として扱われていました。

内モンゴル自治区設立以来実施されてきたこの「第一種双語教育」は、モンゴル民族の発展と固有文化の繁栄に重要な役割を果たしてきました。一方、モンゴル語と漢語のバイリンガル人材を多く輩出して祖国の繁栄にも大きく貢献し、学校教育としての成果が実証された成功した教育政策と言うことができます。

このことから、私たちは内モンゴル自治区に対する「第二種双語教育」の強制的な導入によって、モンゴル民族の固有文化が急速に衰退し、ひいては少数民族地域の安定や統一を損なうことにつながるのではないかと強く危惧しています。

私たちモンゴル民族文化基金は 2002 年の設立以来、中国国内におけるモンゴル民族のモンゴル語による教育事業及び伝統文化の振興事業を助成することを目指し、中国のモンゴル民族小中（高等）学校に対する奨学助成、日本でのコンサート開催、学術セミナー開催などの活動を行なってきました。

この度の件では、内モンゴル自治区内のモンゴル民族小・中学校では、「第一種双語教育」が継続されるべきだと考えています。私たちは関係各機関に対し、中国憲法・民族地域自治法などの関連法規に沿った上で、内モンゴル自治区現地の実情に基づき、「第一種双語教育」の継続を強く要望いたします。それこそが、憲法で与えられた基本的な権利を尊重することです。

私たちは、内モンゴル自治区に導入される「第二種双語教育」を容認できません。

モンゴル民族文化基金理事会

2020 年 8 月 30 日